

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表

平成25年4月改正

平成26年6月改正

平成28年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の資料化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特

の文化の価値を共に学び、新たな文化を創り出す手助けをします。

2. 出会うれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しくなく、気軽に入れて人と人同士が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

4. ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人同士が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

【次世代ミュージアム機能】

従来の博物館活動の枠組みを超えた機能の充実を目指して新設した活動の指針です。

15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

震災が産みだしたモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と呼び、これらの保全と資料化を通じて、東日本大震災で福島県に起きた多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくことを目指します。

16. 新たな文化事業の創出と定着

博物館が蓄積してきた情報・手法・ネットワークなどを基盤に、県内各地域における文化事業の創出を支援し、地域への定着を目指します。